

佐野正之

(横浜国立大学名誉教授)

現行の学習指導要領が施行され、いわゆる「実践的コミュニケーション能力の基礎」の育成を目指した授業が開始されてから3年が経過した。その間、各地で先生方の授業を拝見し、話し合う機会がたくさんあった。先生方の懸命な努力には頭の下がる思いだが、その反面「コミュニケーション能力の育成」という言葉が独り歩きして、それを支える「基礎、基本の定着」や、定着を確認する「評価」がまだ十分ではないのではないかと危惧の念を持った。たとえを挙げて説明しよう。

いささか乱暴だが、英語学習は自動車の運転と似ていると思う。自動車教習所の最終的な目標は、もちろん、どこでも安全で上手な運転をする能力を育成することだが、実際は、ドアの開閉やエンジンの掛け方からはじまり、やがては坂道発進などの高度な操作練習に移ってゆく。結局、「基礎・基本の定着」が、知識や態度もひっくるめた操作練習で、繰り返し図られるのである。英語教育もまた、単語や基礎的文型などの知識をひっくるめて、繰り返し行う操作練習で「基礎・基本の定着」を図らなければならない。

教習所で「定着」を確実にしているのが、段階別に設定された「評価」である。停止線で止まれるか、坂道でエンストを起こさないかというように、段階別の評価基準が明確である。その点、日本の学習指導要領は「安全運転ができる」という全体的な方向は示しているが、ある学年で何が、どの程度できなければならないかという到達目標は明示していない。ならば、教

科書を作る側の責任として絶対的とは言わないが、それぞれの学年の到達度の目安を設定せざるを得ないだろう。

教習所と学校の英語教育の違いは、スキル教育と人間教育の差である。もちろん、教習所でも安全運転の指導は必要だが、英語教育には、世界的な視野で社会や自分を見つめる魂の広がりをもたらすことが期待されている。とすれば、教科書に必要なことは、生徒の変容を促す優れた素材を提供し、教授者がそれを料理できるようにしておくことである。そのためには事実を伝える題材だけではなく、さまざまなものの見方や疑似体験を与えること、あるいは感動や共感を引き起こすものでなければならないだろう。

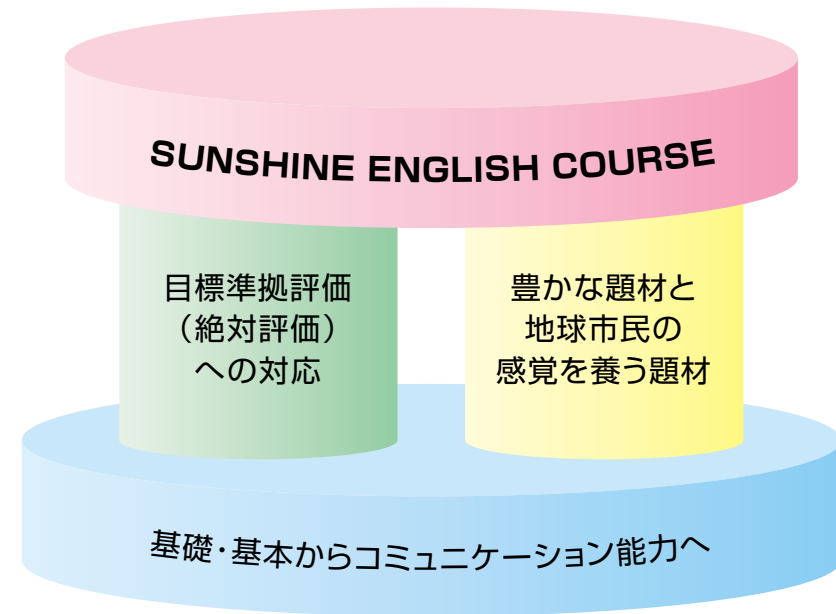
一方また、教科書は生徒にとって身近で、実感を伴ったものでなければならない。そのためには、生徒の生活や学習歴も考慮したものである必要がある。たとえば、小学校で何らかの英語活動がなされているとすれば、それとの関連を考えなければならないし、ローマ字を学習しているならそれとの対比で音声と文字の関係を導入していく試みも必要である。また、逆に出口で考えれば、入試対策としての発展的ナリスニングやリーディングの指導も忘れてはならない。

ともあれ我々は今回、21世紀を生き抜く力を付ける教材を細心にして最大の注意と配慮のもとにつくったと自負している。実際に使われるであろう賢明な先生方の評価を待ちたいと願っている。

新しいSUNSHINE 編集の基本

開隆堂出版 編集部

●SUNSHINEは3つの基礎の上に構成されています。



●編集の基本

1. コミュニケーション能力の基礎の育成

コミュニケーション能力を身につけるには、まず基礎・基本をかため、その上に実際の場面に近い練習を重ねることによってコミュニケーションに至ると考えています。そのためにも、基礎・基本を「聞くこと」「語彙力」「豊富な練習」に置いています。

2. 目標に準拠した評価(絶対評価)

現在は絶対評価を行っていますから、SUNSHINEでは学習指導要領の目標に沿った到達度のめやすを、学年ごとに設定(指導書に明示)しています。これをもとにして評価規準・基準を設定できます。

教科書では学年に3か所あるCheck Your Progressのページで、評価の観点を中心とした測定形式例を示しています。

3. 題材

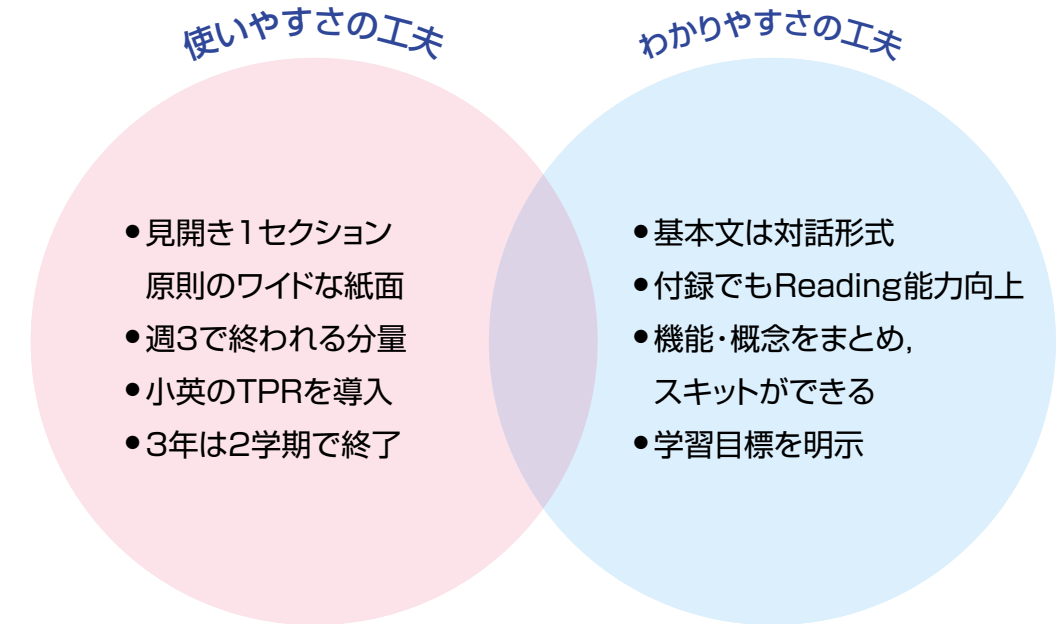
異文化相互理解と、環境、平和、人権、共生などの今日的な話題を中心に扱い、生徒に考えるヒントを与え、豊かな感性と地球市民の感覚を養えるようにしました。

●新しい英語教育を求めて

現行の学習指導要領が実施されて以来、教育界では矢継ぎ早に激しい変化が起きています。

『英語が使える日本人』の育成のための行動計画』の発表、教育特区の設置、学習指導要領の弾力化、つまり「最低基準」論や「発展的学習」の許容、小学校英語活動の増加、少人数・習熟度別授業の実施、学力の国際比較による学力向上論議などが沸騰し、次期学習指導要領改訂の前倒しまでが話題に上っています。

小社平成18年度版中学校英語教科書SUNSHINE ENGLISH COURSEはこのような時代の変化に対応した構成とするため、数々の工夫を凝らしています。



★言語材料面からの対応

コミュニケーション能力を育成するために効果的な言語材料の配列を行ったのはもちろんですが、たとえば1年の基本文にWh-questionを増やす、動詞の過去形と関係代名詞を丁寧に取り上げる、など理解・定着を確実にするための改訂を行いました。

教科書本文では全員が学習すべき項目として最低限の項目を載せて習熟を図りましたが、付録として「付録Reading」「補充Reading」を載せました。また、指導書には言語材料の基本習得のための「スパイラル学習ワークシート」「基礎徹底ワークシート」、読む力を伸ばす「リーディング・ワークシート」などをラインナップして多様なニーズに応えられるようにしました。

★発展学習への対応

一定の条件下であれば学習指導要領に指定する内容を超えて教えてもかまわないことになりました。これを教科書に載せる場合は「発展学習」と表示しています。SUNSHINEでは、学習者の負担を考慮しつつ、この「発展学習」の要素を取り入れました。具体的には、「学習指導要領」で「理解の段階にとどめる」とされている「主語+動詞+whatなどの節」「主語+動詞+間接目的語+how(など)to不定詞」「関係代名詞のうち制限的用法の基本的なもの」を表現することまで求め、「発展学習」としました。

特長1 基礎・基本の徹底からコミュニケーション能力へシームレスに伸ばせる!

まず「聞くこと」から

兵庫教育大学教授 山岡 俊比古



〈1年 Program 10-1より〉

〈1年 Programs 9・10課末 “Let's Practice” “Let's Communicate” より〉

1. 新しいSUNSHINEの特長

新しい **SUNSHINE** は、基礎・基本を重視し、そこからコミュニケーション能力を無理なく育成するという徹底した方針で編集されています。以下に、このことについて具体的に説明します。

2. 聞くことの重視

基礎・基本の重視は、まず聞くことの重視として表れています。聞く活動をとおして基礎・基本の徹底を図ることは、コミュニケーション能力の育成にとって、とても大切なことです。

具体的には、新しい **SUNSHINE** では、**Pre-Listening** によって各プログラムの導入を行い、各パートの基本文について **Let's Listen** で練習し、課末の **Let's Practice** でそのプログラムで出てきた基本文を統合した聞き取り練習を行い、それを基にして **Let's Communicate** へとつないでいきます。まさに、基礎・基本の重視からコミュニケーション能力への展開で、これを聞く活動を中心として行っています。

各セクションの基本文について、かならず **Let's Listen** を配置するていねいな編集は、他の教科書には見られない

大きな特長だと思われます。また、課末にそのプログラムで出てきた基本文を統合した形で練習を行う **Let's Practice** や **Let's Communicate** を用意していることも特長の1つと言えます。

なお、聞くことの活動のためのスクリプトの量は、これまでの **SUNSHINE** に比べてほぼ倍増しています。このことは、新しい **SUNSHINE** がいかに聞くことを重視しているかを示すものです。

3. 基礎としての単語力

単語の力も基礎・基本の重要な部分を占めます。新しい **SUNSHINE** では、まさに基本となり、表出できるように学ぶ必要のある基本語約500語と、理解できればよい約400語を区別し、さらに題材語(固有名詞など題材固有の語)を区別しています。この区別は新語らんの太字・細字などの違いで目に見えるようになっています。

教科書に出てくる語はすべて覚えなくてはいけないと思いが、加重負担になって学習が進展しない事態を避けることが必要です。この意味において、題材語と理解語と表出語を区別し、基本語としての表出語の学習とくに集中できるようにすることは、基礎・基本の徹底につながります。

なお、表出語と理解語のそれぞれについては、「チェックボックス」がつけられています。生徒はそれぞれ自分の判断で、意味を覚えたらチェックボックスの上半分を塗りつぶし、発音できるようになったら下半分を塗りつぶすようになっています。これは、生徒が自ら積極的に学習に取り組めるようにするための工夫で、自律的な学習者の育成にもつながると思います。

4. 読むことへの配慮

新しい **SUNSHINE** では、聞くことを重視していますが、読むことへの配慮も十分行っています。ある程度の長さを持った、読むことの楽しさを実感できるような教材として、3学年を通して付録Readingと補充Readingを加えています。

付録Readingでは内容豊かな話題を取り上げ、補充Readingでは基本文を読みの中で復習し、再確認できるようになっています。

また、2年と3年では、通常のプログラム本課として2つずつ読むことを中心としたプログラムが用意されています。ここでは新しい基本文は出てこず、読みに集中できるようにしています。

5. 話すことと書くことへの配慮

新しい **SUNSHINE** では、話すことと書くことへの配慮も十分に行っています。話すことについては、各プログラムのセクションごとに基本文に対応する **Let's Try** が配置されており、ここで表出練習を行うようになっています。さらに、**Let's Communicate** の中の **Speaking Task** でも、表出によるコミュニケーション活動を行います。

書くことについても、**Let's Communicate** の中に **Writing Task** が含まれており、ここで書くことの練習を行うようになっています。

6. まとめ

以上のように、新しい **SUNSHINE** は、英語の4技能の発達をバランスよく図りながらも、とくに聞くことを重視した編集となっています。学習目標となる個々の基本文にていねいに対応した聞く活動の重視は、まちがいに基礎・基本の徹底につながるものです。このことは、語彙についての基本語の絞り込みによる単語力の徹底と相まって、コミュニケーション能力の基盤となるべき基礎・基本の学習を効果的に促進するものと考えています。



特長2 評価がしやすい!

香川大学教授 竹中 龍範

1. 指導と評価の一体化

平成14年度より現行学習指導要領が実施されるのにもなつて新しい評価の枠組が示され、目標に準拠した評価(絶対評価)を一層重視することとなりました。各学校においては評価規準を作成し、評価方法に工夫改善を加えることが求められ、現在、学習指導の中に評価活動を明確に位置づけて「指導と評価の一体化」をめざした授業が各地に展開されているところです。ペーパーテストを重視し、学習の結果のみに基づいて評価を行うという考えから、授業の各場面において、生徒がどのような学習実現の状況にあるかをも様々な方法を用いて把握し、継続的・総合的に評価するという考えへと変わってきているわけですが、そこでは、単元ごとに「指導と評価の計画」を作成し、具体的な学習活動についての評価規準を設定することとなっています。この点で、授業中における評価活動を効率的、効果的に進めるうえに、教科書の果たす役割は大きいと言えるでしょう。この度のSUNSHINE ENGLISH COURSE(以下、SUNSHINEと略す)の改訂にあたっては、学習指導と評価活動の両面にわたって使いやすい教科書という方針が立てられています。ここでは評価の面からその特長をいくつか取り上げて紹介します。

2. 段階的到達目標の設定

中学校の3年間で学ぶべき英語の到達目標が、学習指導要領に掲げられた教科目標、すなわち、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」ことであることは言うまでもありません。しかし、これは方向目標を示したものであって、評価の際に判断のよりどころとなる尺度が示されていないために、具体的な到達目標とすることは困難です。そのため、SUNSHINE編修にあたっては、国立教育政策研究所より発表された『平成13年度小中学校教育課程実施状況調査報告書』の結果分析を基に、6~7割の生徒がこれくらいのことはできなければならないというレベルを最終到達目標として設定し、これを基に各学年の到達目標を段階的に設けました。

こうして、学年が進行するにつれてより上級の活動が行われるように活動内容が構成されています。例えば、Let's CommunicateのセクションにおけるWriting Taskでは、Speaking Taskで行ったQ-Aや対話を基に、1年では3文程度、2年では4文程度、3年では5文程度以上の作文を課しています。また、Speaking Taskにおいても、文型

練習に基づく音読から、作文の内容を暗記してスピーチを行い、さらに、モデルを基に自由に対話を行う段階へと発展するように構成されています。

3. 自己評価のできる生徒の育成

新しい評価の考え方の中では、従前の教師による評価に加え、生徒自身の自己評価、生徒どうしによる相互評価を工夫することが求められています。生涯学習の時代に向けて自律型学習者の養成が目ざされるなか、現在、自己教育力とともに自己評価力を身につけた学習者の育成が必要になってきています。新しいSUNSHINEにはこの点についての配慮も明確な形で織り込まれています。

まず、目次ならびに各セクション冒頭に学ぶべき文型・文法と、学んでできるようになることが明示され、生徒が各課、各セクションにおいて「何ができるようになるべきか」、言い換えれば、習得すべき目標を明示的に把握できるようになっています。

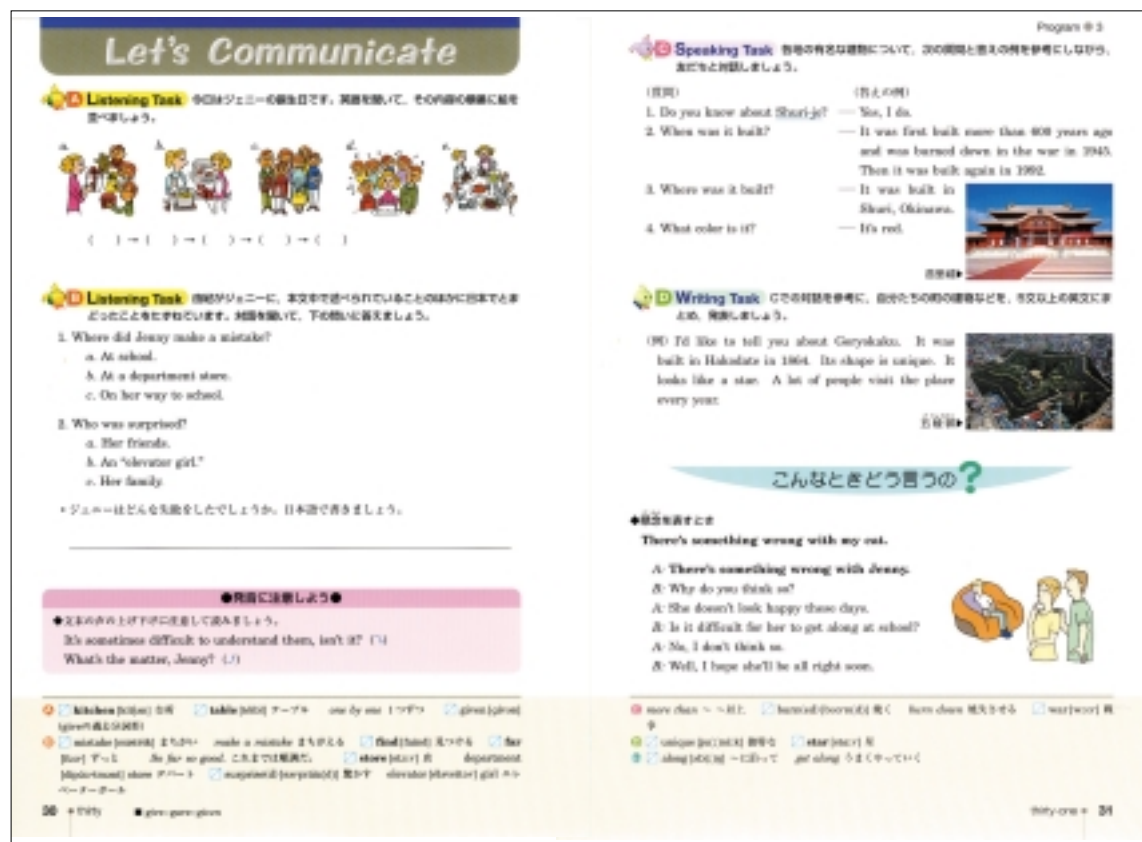
また、各学年に3回ずつ設けられたCheck Your Progressのページでは、評価の観点に即した到達度の自己評価システムが与えられ、生徒は自分自身の理解度、ならびに到達度を確認し、それを記録できるように工夫がなさ

れています。この自己評価システムは各課の新出語についても同様の確認ができるようになっており、語彙の習得状況を生徒自身が視覚的に把握できることをねらっています。

4. 弱点補完に対する配慮

「教育課程実施状況調査」の結果、現在の中学生にとって弱点となっている分野についても配慮がなされています。例えば、全般に「おおむね良好」とは言えない「書くこと」の中でも特に低い文構造理解問題では、正確な語順で書くことのできない生徒が多いことが示されています。語順の理解は英語の習得に決定的な意味を持ちますので、この度のSUNSHINEでは、各課末のLet's PracticeやCheck Your Progressの「書けるかな」において語順整序の活動を十分に盛り込んでいます。

このように、新しいSUNSHINEは中学校英語教育の現状認識に立ち、そのあるべき方向を志向して編修されています。



〈3年 Program 3 課末 “Let's Communicate” より〉



〈3年 “Check Your Progress ②” より〉



特長3 題材がおもしろい!

愛知淑徳大学教授 松本 青也

教科書の著者は題材選びに多くの時間を費やします。外国語を学ぶ楽しさを感じてもらいたい、色々な分野の英語に触れてほしい、自分の考えを英語で世界に発信できるように地球市民が直面する課題を英語で考えさせたい、あるいは感動的な話で心を豊かにしてほしい、言葉と文化のつながりに気付いてほしい、など様々な思いを込めて慎重に題材を選定します。今回の **SUNSHINE** には、そうした著者の熱い思いが見事に結実しています。

1年では、主人公の由紀が初めて英語に触れ、やがて英語でいろいろな人とコミュニケーションができるようになるまでの過程を多くのエピソードを交えながら物語風にたどっていきます。生徒は由紀の喜びや戸惑いに共感しながら、英語を使って分かり合えることの楽しさを身近に感じることでしょう。後半からは、生徒の興味を引く題材が平易な英語で盛り込まれています。アメリカの西部を中心に今でも根強い人気のあるロデオ、ソーラーカーでおなじみの太陽光などのクリーンエネルギーなど、面白い題材が次々に展開されます。特に、約500語の言葉が理解できるボノボ(ピグミーチンパンジー)の話は、まるで人間が新しい仲間に出会ったかのような気にさせ、生息数の急激な減少を何とかして食い止めなければと思わせます。「付録 Reading」

の“Whale Rider”は、映画化されて(邦題:クジラの島の少女)多くの賞を受けた作品で、ニュージーランドのマオリ族の少女が村の人たちへの愛と勇気から奇跡を起こす神秘的な伝説の物語です。

2年では、アトランタ、シドニーに続き、去年のアテネ・パラリンピックでも男子50メートル自由形で金メダルを獲得して3連覇の偉業を成し遂げた河合純一先生の話が感動的です。小学校時代の先生に憧れて教職を目指しながら15歳で全盲になった彼は、夢を持ち続けて教員になり、スポーツでも大きな夢を実現しました。夢や目標を持ち続け、実現に向けて着実に努力することの大切さを生徒たちは学ぶ取ることでしょう。この他にも、食文化の違いに気付かされるポットラックパーティーや地球温暖化防止の切り札として期待を集めている燃料電池の話、日本で生まれ育ったソフトテニスの話、日米の慣用的な言語表現の背後にある価値観の違いに気づかせるエピソード、そして映画 *The Sound of Music* に描かれたマリアの生涯、さらに現行版で好評な題材が2つ、献身的な奉仕活動に生涯を捧げたマザー・テレサの活動と手紙を託されたティディベアのマックが世界旅行をする話など、豊富な題材がきっと生徒たちにいろいろなことを考えるきっかけを与えてくれることで

しょう。

3年になると題材も内容に深みが出てきます。1992年リオデジャネイロで開かれた国連の地球環境サミットでは、当時12歳の少女によるわずか6分間のスピーチが参加者に深い感銘を与えましたが、その後世界中で紹介されたこの素晴らしい「リオの伝説のスピーチ」が「付録 Reading」として掲載されています。生徒たちにとっては、自分より年下の少女がこんなに深く物事を考え、こんなに影響力のある行動をしたのだという事実が大きな刺激になるに違いありません。本課の題材では、広島を悲劇を、残された小さなルミちゃんの姿から描いた“A Red Ribbon”も、人間の愚かさを静かに、しかし切々と心に訴えかけます。そのほか、パプアニューギニアでの日本人の先生によるボランテ

ィア活動、無意識に使う言葉に込められた考え方の違いを浮き彫りにする比較文化のエピソード、シドニーオリンピックの金メダリスト、キャシー・フリーマンを通して描くアボリジニの伝統文化と民族の誇り、ハリー・ポッターゆかりの土地を訪れる英国旅行記、岩山と小鳥のやりとりから心の触れ合いや愛の大切さを美しいイラストで描く寓話、そして現行版でも人気の高い沖縄の音楽を新しい視点で紹介する話など、いろいろな意味で生徒が「おもしろい!」と思いきそうな題材が目白押しです。

これ以外にも「補充 Reading」として、シンガポールやオーストラリアの紹介から新幹線やインターネットの話まで、1ページの読み物が3巻のそれぞれに3つ~5つ用意され、本文の内容を充実・発展させてくれます。

〈教科書題材一覧〉

| | 1年 | 2年 | 3年 |
|-------|---------------------------------------|--|---|
| PROG. | タイトル(テーマ・話題) | タイトル(テーマ・話題) | タイトル(テーマ・話題) |
| 1 | パーティーで英語を話す。(自己紹介) | How Did You Spend Your Vacation? (余暇の過ごし方) | Give It a Try! (余暇の過ごし方) |
| 2 | アンディー、武史の家へ行く。(家や家族の紹介) | Let's Enjoy a Potluck Party. (パーティー) | On the Web (インターネット) |
| 3 | シンガポールからのお客さん(好きなことについて話す) | A Trip to Australia (海外旅行) | Don't Ask Me That Question! (異文化理解) |
| 4 | キャンプの準備(キャンプについて話し合う) | With Love and with Joy (マザー・テレサ) | A Red Ribbon (戦争・平和・広島) |
| 5 | 由紀、シアトルに行く。(機内・空港での会話) | You Look Great! (ほめ言葉からの異文化理解) | Working as a Volunteer (海外ボランティア・パプアニューギニア) |
| 6 | シアトルでの1日(アメリカでの生活①) | Our Hopes, Our Plans (ビデオを通しての国際会議) | Okinawan Music (音楽・沖縄・平和) |
| 7 | A Day at the Rodeo (アメリカでの生活②) | Reach for Your Dream. (パラリンピック・夢・障害の克服) | Yuki in London (海外旅行・ロンドン) |
| 8 | Clean Energy (環境問題) | Our School Life (学校生活) | The Olympic Gold Medal (少数民族・スポーツ・オリンピック) |
| 9 | Yuki Talks about Kanzi. (動物) | A Cool Car, a Clean Future (環境問題) | The Mountain that Loved a Bird (心の交流・ふれ合い) |
| 10 | A Busy and Happy Morning (電話・家族・ユーモア) | Her Dream Came True. (夢・世界旅行) | |

(注) PROG.はPROGRAM(課)を表します。



〈1年 Program 6-1より〉



〈3年 Program 4-1より〉



特長4 小学校英語からのスムーズな橋渡し!

東京都狛江市立狛江第一中学校教諭 北原 延晃

「栄養バランスのいい教科書ができました」

平成18年度版教科書が完成しました。コミュニケーション重視のスタンスはそのままに、語彙指導や文法指導などコミュニケーションの基礎を重視し、さらに英語教育の新しい課題に対応できる内容になっています。以下、新しいSUNSHINEの特長について述べます。

小学校英語からの橋渡し

1. 入門期プログラム「Let's Start 1~4」の充実

- (1) 「Let's Start 1.3」「発音チャレンジ」で外来語から英語へのスムーズな入門を図っています。
- (2) 「アルファベット・クイズ」でアルファベットの文字とその音の関係が同時にわかります。文字を見たら発音できる足がかりとなります。
- (3) 「Action Time」でTPR(Total Physical Response)を使って動詞を音声と動作で継続してインプットでき、英語で授業を進める基礎を養えます。また一般動詞が導入されるProgram 3ですぐに多様な動詞を使うことができるようになっています。
- (4) 「アクションカード(一般動詞カード)」を切り取りカルタとして利用しながら動詞、動詞句の練習ができます。



〈巻末資料 アクションカード：表〉

時制(現在進行形, 過去形), 助動詞canなどの導入に使えます。

2. 発達段階(1~3年)に適したフォーマット

1年は10課のうち8課までが対話の「吹き出し」方式で漫画世代の生徒になじみやすいものになっています。会話表現では、見た目で話者が分かりやすい「吹き出し」方式にすることで、ことばの使われる場面やことばの動きが視覚的に把握できます。また見開き1セクションなので紙面にゆとりがあります。

3. 英語の歌

英語の歌は生徒の学習の進展によってナーザリーからアップテンポの曲まで揃えてあります。アップテンポの曲は英語のリズムをつかんだり、英語を速く言う訓練になります。楽譜よりも内容がわかる訳詞を掲載してあります。また学習者に配慮した句読法(大文字・小文字, ピリオド等)を採用しています。

4. プロダクション(表現)を意識した言語材料配列

自己表現が早い段階からできるように一般動詞は

| | | |
|-------------------|--------------------|--------------------|
| drink some tea | close your book | clean your room |
| open your book | make sushi | eat breakfast |
| sing a song | read a book | play baseball |

〈巻末資料 アクションカード：裏〉

Program 3から, he / sheは1学期前半に, 過去時制は2学期に登場させました。

充実した語彙指導ができる構成

- (1) 新出語数
生徒の学習負担を考え、セクションごとの新出語は原則として8語までに抑えてあります。
- (2) 「基本500語」の設定
独自のコーパスを用いて旧学習指導要領別表2の語数に相当する重要語を太字で表示してあります。「つづりまで覚える語」(productive vocabulary)と「意味が分かればいい語」(receptive vocabulary)を区別して指導し生徒の負担を軽減できます。
- (3) 「チェックボックス」の新設
「読める」「意味が分かる」語をチェックするためのチェ

ックボックスを新出語に配置しました(一部固有名詞などを除く)。学習者の自学への支援をめざすためです。またこれによって教師は個々の生徒の学習状況を知ることができ、その後の個人指導につなげることができます。

- (4) 語彙力強化のための教授資料
「スパイラル学習ワークシート」を全面的にさらに充実させて、既習語のうち身につけていない語を何度も繰り返し復習できます。同時に語彙の拡充を図ることができます。この「スパイラル学習ワークシート」はまた、語彙指導と並んでコミュニケーションの基礎となる文法事項の復習・まとめとしても使うことができます。
- (5) フラッシュ・カードをリニューアル
語彙指導に定評がある現場の先生が実際に効果が上がっているフラッシュ・カード作りのノウハウを盛り込み、さらに使いやすいものにします。



〈1年 Program7-3より〉

カラフルな紙面を原則見開きページ構成で提示しました。見開きにすることで、生徒には学習する項目全体が一目でわかります。読む活動の素材となる本文と、聞く活動や話す活動・書く活動が有機的に結びつけられます。イラストや写真を大きく使い、ビジュアルな紙面で学習効果も上がります。

特長5 音声と「こんなときどう言うの？」の扱いを工夫!



音声の扱い

中学生にとって、英語の発音練習はたいへん重要な意味を持っています。なぜならば、教科書の英単語が発音できない、つまり、教科書の英文が読めないため、自宅でいざ勉強しようと教科書を広げても、その先に進まなくなってしまうからです。さらに、悪循環として、下手な発音だと他人に思われたくないので、クラスメートの前では英語を話さなくなってしまう。異性の前ではなおさらです。口頭でのコミュニケーション活動の妨げにつながってしまうのです。教科書の英文を声に出して読めるように支援してあげることは、教師のたいへん重要な役割となります。

SUNSHINEは、「基礎・基本の徹底からコミュニケーションへ」という18年度の教科書編集の基本方針の下、今まで以上に音声の扱いを重要視しています。3年間を通じて系統的な指導ができるように様々な工夫が凝らされています。まず、新出単語や新出表現の中で特に重要な発音について、本文ページ欄外で取り上げ、練習できるようにしています。特に、入門期である1年生の教科書では、どのような点に注意して発音の練習をすべきか、簡潔な説明も施されています。この各ページ欄外の練習では、英語の文のイントネーション、単語と単語の同化現象、母音と子音

の練習が含まれます。特に、日本語の音声とは異なる英語音やイントネーションは、習えばすぐに習得できるというわけではないので、3年間にわたり繰り返し取り上げ、何度も練習できるように工夫がされています。

また、1年生では2課ごとに、**Let's Communicate**という課末の練習が設けられていますが、その中に「発音に注意しよう」と題する、当該セクションでの音声に関するまとめの欄があります。ここでもう一度、生徒に重要な音声事項について確認させ、復習をしておきたいところです。

さらに、1年生の教科書では、1課の本文に入る前に「Let's Start 1~4」というセクションを新設しました(全8ページ)。ここでは、英語学習への導入として、日本語の中で頻繁に使用される英語からの借用語を手がかりに、日本語と英語の発音の相違を意識させ、関心を高めることで英語の音声への意識化をはかろうとしています。2年生以降は、新出単語の横に国際音声字母に基づく発音記号を載せています。生徒が自宅学習をしたり、自分で辞書を引いたりする際、単語の読み方で苦労しないためにも、発音記号の読み方もぜひ教えたいたいです。



〈1年 Let's Start 1 より〉

静岡大学教授 白畑 知彦

文機能の扱い

コミュニケーション能力を身につけるためには、英語の文構造や表現の仕方も学習していかなければならないことは言うまでもないことでしょう。生徒に最低限身につけてもらいたい表現が、各課での「基本文」として例示されていることは従来と同様です。まず、この基本文をしっかりおさえておきたいと思います。「基本文」は意味のある会話文になっているので、生徒どうしてペアになって練習することもできます。「基本文」の配列は、コミュニケーション活動の重要性の側面と、3年間での生徒の認知的発達を考慮に入れて決定されています。基本文理解・定着のための練習として**Let's Listen**と**Let's Try**を設けてあります。復習をかねながら**Let's Listen**を行った後で基本文に進んでもよいでしょう。

1年生では、コミュニケーション活動を行う際に役立つwh-疑問文の導入を従来よりも全体的に早めた点が特色の

1つとしてあげられます。この処置により、生徒に身近な題材を基に、早い段階からでもコミュニケーション活動がしやすくなりました。Yes/No 疑問文だけでは単調になりやすい活動の幅を広げられるでしょう。

課末の**Let's Communicate**の中の「こんなときどう言うの？」で、主要な文機能をまとめているので、有効に活用したいところです。ここでは本文で扱われた重要な表現を単にまとめているだけではなく、補充的な表現も数多く取り上げ、生徒の表現の幅を広げることを意図しています。例えば、2年生では「ほめるとき」「何かを申し出るとき」、3年生では「懸念を表すとき」「行き方をたずねるとき」など、数多くの有益な表現を実例と共に紹介しています。その提示の仕方も、無味乾燥な例文の羅列にならないよう、状況のある対話文の形にして提示しています。これらを効果的に活用することで、授業での会話練習がスムーズに行えるようになることでしょう。

〈文型・文法事項の配列〉

易から難へ、短いものから長いものへの原則のもとに、前時の復習、次時へのつながり、類型性と対照性などを総合的に考慮して言語材料を次のように配置しました。

| PROG. | 1年 言語材料 | 2年 言語材料 | 3年 言語材料 |
|-------|---------------------|-----------------------|------------------------------|
| 1 | I am ~. | 過去形/疑問文(規則動詞・復習) | 現在完了-完了 |
| | Are you ~? | 不規則変化動詞 | 現在完了-経験(疑問文・否定文) |
| | This is ~. | be動詞過去形/疑問文 | 現在完了-継続 |
| 2 | Is this ~? | 過去進行形 | have been to ~ |
| | He [She] is ~. | There is [are] ~./疑問文 | It's + 形容詞 + for + 人 + to do |
| | What is ~? | 接続詞when | know how to do |
| 3 | 一般動詞 | be going to ~ | 受動態(byなし) |
| | 一般動詞の疑問文 | 助動詞will | 受動態(byつき) |
| | What do you ~? | have to ~ | *teach me how to do |
| 4 | 複数形 | 復習 | 復習 |
| | How many ~? | | |
| | Who is ~? | | |
| 5 | 命令形 | She looks happy. | ask + 人 + to do |
| | Which bag is ~? | giveなど + 人 + 物 | call him Jim |
| | Where is ~? | I think that ~. | make me happy |
| 6 | 三単現 | to不定詞(名詞的用法) | 現在分詞の後置修飾 |
| | 三単現の疑問文 | to不定詞(副詞的用法) | 過去分詞の後置修飾 |
| | When do you ~? | to不定詞(形容詞的用法) | 接触節 |
| 7 | 過去形(規則動詞) | 動名詞 | *I know how ~. |
| | 過去形の疑問文 | become/became | *関係代名詞 who(主格) |
| | How long ~? | 接続詞if | *関係代名詞 which(主格) |
| 8 | 所有格 | 比較級 -er than ~ | 関係代名詞 that(主格) |
| | Whose bag ~? | 最上級 the -est | 関係代名詞 which(目的格) |
| | 目的格 | 同等比較 | 関係代名詞 that(目的格) |
| 9 | can | more | |
| | canの疑問文 | the most | |
| | How do you ~? | better, the best | 復習 |
| 10 | 現在進行形 | | |
| | 現在進行形の疑問文 | 復習 | |
| | What are you doing? | | |

(注)*は学習指導要領で「理解の段階にとどめる」と指定されている項目です。

(注)PROG.はPROGRAM(課)を表します。

平成18年度版 SUNSHINE ENGLISH COURSE Q&A

Q1 教科書を終わらせないといいませんが、年間配当指導時数はどうなっていますか。

A 教科書では目安として1年に61時間、2年に64時間、3年に60時間の配当となっています。年間105時間(週3時間)のうち行事などによる減少分を除いて実質80時間前後を確保されているところが多いようですから、教材を見ながら、どこに時間をかけるか、この差の20時間前後を使って各学校で実態に応じた指導計画を作成していただけるよう余裕をもたせてあります。

Q2 本文下の基本文は対話形式になっていますが、なぜですか。

A コミュニケーション能力育成のためには、構造から提示するよりも「どういうときにどんな言い方をするか」を提示したほうが効果的であるとの見地から、そのまま対話活動ができる形で提示しました。

構造から提示することもそれなりの効果がありますが、どうしても学習活動中心に流れやすく、具体的な場面や状況の中で使うという面からは難点があります。セクションの目標が言語材料自体の習得だけにあるのではなく、言語材料を使って何ができるようになるかに重点があるために対話文で提示してあります。

Q3 課末の「こんなときどう言うの?」は文機能を扱っていて有用ですが、今回は扱いが変わっているのですか。

A 今回は文の機能に簡潔な例文を与えるのみでなく、それを使った対話文をつけました。この対話文を使って教室内でスキットをさせるなど、活用範囲が大きく広がったものと考えています。

Q4 「聞く・話す」を中心にしたL-Sの課がなくなっています。

A 今回はいっそう「聞く」ことに重点を置くために、特定の課を「聞く・話す」にするよりもむしろそれを発展的に解消して、各課の後ろに「聞く」ことから「話す・書く」までを伸ばせるようにしたLet's Communicateを設置しました。これも基礎・基本としての「聞く」ことからコミュニケーション能力をつけるという編集方針の一環です。

Q5 Pre-Listeningなど音声を「聞く」箇所が多いようですが、音声スクリプトはどこに載るのですか。

A 音声スクリプトは指導書の該当ページに載せまじ、スクリプトの音声自体も指導書の付属CDに録音されます

ので、仮に学校用CD(別売)がなくても困ることはありません。

Q6 巻末に付録 Reading, 補充 Reading がありますが、目的は何ですか。

A 付録 Reading は学年末に、補充 Reading は2~3課終わったところに対応した読み物にしてありますから、進捗を考慮しながら適宜扱っていただけるようにしてあります。

教科書の本文は対話文が多いため、まとまった文を音読、黙読する活動がややもすると不足することがあるのを補うためです。とくに補充 Reading は本文の内容・テーマに関連した話題を取り上げ、言語材料もそれまでに学んだ事項の範囲内にとどめることで、学習負担を考慮しつつ学習量を増やすことができます。習熟度別編制、選択英語の時間の教材として利用することもできます。

Q7 言語材料の配列は変わったのですか。

A 学年内での多少の移動はありますが、大きな変更点は以下の通りです。

- (1) 2年にあった現在完了(経験, 継続, 完了の3用法)をすべて3年に移しました。
- (2) 1年では基本文にwh-疑問文(How many...? / Which bag...? / How long...? / What are you doing?)を増やすなど、各学年で基本文を増やし、言語材料を小さなステップでいねいに扱いました。
- (3) 1年では過去形(規則変化のみ)をProgram 7に配置し、現行版より1課早め、現行版に一部不規則変化動詞を扱っていたのを2年に送りました。

Q8 1年の三単現はつまずきやすいポイントですが、どのように扱っているのですか。

A 一般動詞の導入はProgram 3-1で、三単現はProgram 6-1と離して扱っています。三単現はnative speakerにとっても言語習得時期は遅くなるという研究があります。教科書ではむしろ、英語の基本語順であるSVOを十分に練習してから三単現を扱うことにしています。三単現は言語学習的には重要性がありますが、音声コミュニケーション的にはさほど重要な要素ではありません。むしろ1年では日英語の基本的な差であり、意味決定に重要な要素である語順の習得に力点を置いたほうがよいと考えました。

Q9 過去形の扱いはどうなっていますか。

A 現行版ではProgram 9で扱っていますが、今回はProgram 7に早め、活動の幅を広げました。

Q10 1年巻末付録に「アクションカード」というカルタのようなものが入っていますが、どう使うのですか。

A 「絵を見て英語が言える」「英語を見て読める」などの要素をさまざまなアクティビティーに応用できるカードです。小学校英語活動への対応として1年入門期に配当したAction Time 1~10に出てくる動詞のうち、特に動詞と名詞の結びつきが分かりやすいものを選んで切り取り用のカードにしてあります。Let's Try に数か所、使用を示唆してありますが、このほかにSimon Says やInformation Gap を利用したアクティビティーなどに使っていただくように意図しました。

Q11 2, 3年の最初にWarm-Upがありますが、どのように扱うのですか。

A クラス替えをした学年当初は行事続きだったりして落ち着きませんから、ここには新事項を入れず、むしろ2年なら1年での自己紹介に続いて友達の紹介(他己紹介)、3年は「海外旅行に行くならどこ」の設定で同じところに行く友達を捜す、というふうに学年当初にふさわしいアクティビティーにして前学年の復習ができるようにしました。

Q12 2, 3年にはReadingの課がありますが、その扱いはどうするのですか。

A 教科書本文は全体として対話文が多くなっています。学年が進むにつれて読む活動も当然重要度をまてきますので、2, 3年に各2課ずつ設定しました。学習指導要領に言う黙読や音読、「あらずじや大切な部分を読み取る」などの活動が中心になるように配置してあります。

なお、巻末には付録 Reading, 補充 Reading を配して、リーディング能力の伸長を図る構成にしてあります。

Q13 3年の現在完了と受け身は理解しにくい項目ですが、どのように取り扱われていますか。

A 現行版では現在完了の基本的な3用法を2年に配当し、3年でその発展用法(have beenなど)を配当してありますが、今回は3年の最初に配置しました。2年の文法事項が混み合っていることと、学年末のあわただしい時期に教えるより学年初頭にじっくりと教えるほうがよいとの判断です。これにより、生徒に英語を分かりにくくしている一因の過去分詞を一括して3年で取り上げることになりました。

「受け身」の文はdiscourse上必要な場合に使われる言語形式であり、能動態の文と無条件で交換可能というわけではありません。また行為者を表すbyがつく形は受け身文の20%に満たない出現率であることをふまえるとともに、基本的な構造<be+過去分詞>に注目させるためにあえてbyのない形から導入しています。

Q14 3年で関係代名詞が出る前に関係代名詞(目的格)の省略が出ていますが、意図があるのですか。

A p.52(Program 6-3)の基本文This is the book I bought yesterday.を指しておられるのかと思います。この文は「関係代名詞の省略」ではなく「接触節」という「節による後置修飾」の一形式として扱っております。これは『中学校学習指導要領(平成10年12月)解説一外国語編一』の「接触節については、先行詞による使い分けが必要ないなど、学習上の負担が比較的少ないと考えられ、関係代名詞節とは別のものとして考えることとする。」(p.46)に依拠しています。英語では後置修飾構造が重要であり、語、句による後置修飾の延長上の、節による後置修飾を「接触節」として提示しております。接触節による修飾節の導入は、あくまでも修飾構造の付加の仕組みが、日本語の前置修飾とは逆になるという、修飾節に関する基本的な理解を容易にするためにあります。見た目は関係代名詞(目的格)の省略とまったく同じですが、「省略」という概念は省略されたものを補って考えるという複雑なプロセスをとります。「接触節」はもともとそこには何もなく、修飾節が語に後ろから接触して修飾しているだけ、という考え方で

す。関係代名詞が学習指導要領で「理解の段階にとどめる」事項とされていること、接触節がコミュニケーションを図る上できわめて重要な表現形式であることからこのような配列にしてあります。

Q15 3年のp.29, 59, 61などに「発展学習」というのが入っていますが、これはどういう扱いですか。

A ご指摘の箇所は<SVO+how to, SV+how 節>と関係代名詞を学習するところです。この項目は学習指導要領で「理解の段階にとどめること」と指定されています。先般から学習指導要領を超える学習事項を教科書に載せる場合には「発展学習」と明示することになっていますので、これら7つの項目について「表現」することまで求めた活動を「発展学習」として位置づけました。「すべての生徒が一律に学習する必要はありません」という意味の表示です。

SUNSHINE ENGLISH COURSE

平成14年度版・18年度版比較

| | | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 合計 | |
|------|------------|-----|------------|-----|------------|-----|------------|-----|------------|
| | | 14年 | 18年 | 14年 | 18年 | 14年 | 18年 | 14年 | 18年 |
| ページ数 | 本文ページ数 | 86 | 78 | 86 | 80 | 82 | 76 | 254 | 234 |
| | 補充Rページ数*1 | 0 | 5 | 0 | 4 | 0 | 3 | 0 | 12 |
| | 付録ページ数*2 | 25 | 38 | 31 | 38 | 35 | 35 | 91 | 111 |
| 課数 | 課数 | 12 | 10 | 11 | 10 | 11 | 9 | 34 | 29 |
| | セクション数 | 35 | 30 | 31 | 32 | 33 | 31 | 99 | 93 |
| | 基本本文数 | 27 | 30 | 25 | 24 | 18 | 21 | 70 | 75 |
| 新語数 | 新語数(基本語含む) | 381 | 413 | 279 | 306 | 218 | 195 | 878 | 914 |
| | 基本語数 | 302 | 319 | 134 | 138 | 64 | 43 | 500 | 500 |
| | 題材語数 | 68 | 68 | 48 | 69 | 31 | 65 | 147 | 202 |
| 配当時間 | 本文 | 49 | 45 | 38 | 40 | 37 | 38 | 124 | 123 |
| | 課末練習 | 11 | 10 | 20 | 18 | 21 | 16 | 52 | 44 |
| | Check*3 | 6 | 6 | 6 | 6 | 4 | 6 | 16 | 18 |
| | 合計 | 66 | 61 | 64 | 64 | 62 | 60 | 192 | 185 |

*1 「補充R」は「補充Reading」を表します。付録の中には補充Readingのページを含みます。14年度版には補充Readingはありません。18年度版には補充Readingのほかに付録Readingがありますが、両方とも標準授業配当時間数には含めません。

*2 付録ページ数は本文紙部分のみを数えています。前見返しと奥付以降の付録は除いてあります。

*3 14年度版の「まとめ」は18年度版ではCheck Your Progress (=Check)に内容を変更してあります。

平成18年度版 SUNSHINE ENGLISH COURSE 準拠教材・教具一覧

完備した教授資料 Teacher's Manual

- 解説編
- コミュニケーション・ワークシート
- 授業案編
- スパイラル学習ワークシート
- 協同授業案編
- テスト問題シート(観点別評価テスト問題付き)
- Teacher's Book
- Teacher's CD
- リーディング・ワークシート
- 別冊教科書データCD-ROM

充実した完全準拠教材

- #### 〈生徒用印刷教材〉

 - サンシャイン学習の友(各学年)
 - ワークブック(各学年)
 - テスト対策問題集(各学年)
 - 英語ノート(各学年)
 - ペンマンシップ
 - 単語・熟語ブック(各学年)
 - 観点別チェックテスト(各学年)
- #### 〈生徒用視聴覚教材〉

 - リスニングCD(各学年, 家庭学習用)
 - CD-ROM クリックオン(各学年)

〈授業用視聴覚教材〉

 - スクール版CD, テープ(各学年)
 - ピクチャーチャート(各学年)
 - フラッシュカード(各学年)
 - ビデオ(各学年)
 - 学校用CD-ROM(各学年)

※上記教材・教具は、現在企画中のため、商品名等は変更する場合があります。